

発行:太平洋核被災支援センター

<http://bikini-kakuhisai.jet55.com>

事務局 宿毛市山奈町芳奈2779-2

山下正寿 Tel・Fax 0880-66-1763

<masatosi.sky@orange.zero.jp>

コロナの感染爆発に豪雨災害、加えて猛暑、たまりません。皆さん、何とか、凌いで下さっていますか。

さて、6月19日(土)、土佐佐賀でビキニ被災調査を行いました。3月「ビキニデーin高知」幡多フィールドワークの時、駆け付け参加して下さった浜町一三男さんが、1954年当時第7大丸に乗船していたと自己紹介がありました。第7大丸は被ばくを立証する要の船です。ただ、その時は時間不足で、さらに詳しく話を聞く必要がありました。

また、8月9日(月)、黒潮町あかつき館で「平和のための映画会」を開催しました。「2022 ビキニデーin高知」の主催で、核兵器禁止条約発効を歓迎し、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ核被災者支援のためです。高知では6日、安芸では15日実施です。幡多では、台風9号通過直後にも関わらず、60名を越える参加で予想以上に盛況でした。アンケートの結果もご覧ください。



浜町さん(手前から2人目)への聞き取り

1. 6/19(土)土佐佐賀ビキニ被災調査

6月19日、土佐佐賀でビキニ被災調査を行いました。室戸から濱田さん、高知から下本さん、岡村さん、森先生(高知大)、地元から明神さんが参加してくれ、私たち山下、今城、上岡を合わせて計8名が浜町さんの自宅を訪問しました。

浜町さんは89歳ですが、大変元気で歯も全て揃っている、被災者の中では極めて珍しい方です。浜町さんによると、元気の秘訣はニンニクが大好きで、鰹の

刺身に微塵切りのニンニクをたっぷりまぶして食べるのが最高だといえます。

さて、浜町さんは1954年当時(32歳)、第7大丸に乗船していたと話してくれました。ところが、船員手帳にはその記載がなく、また、第7大丸は木造船と鉄船の2種類あったとのことで、濱田氏持参の第7大丸の船員名簿を見てもらっても確認ができませんでした。当時は保険の関係や手続き上、他人名義で乗船させることもあったといえます。

第7大丸はビキニの近くで操業、浜町さんは核実験によるキノコ雲を見たといえます。15,6回の延縄漁で満杯になり築地に帰港します。水揚げ時にガイガーカウンターの検査を受け、汚染マグロを再び積みなおし伊豆大島沖で廃棄させられました。大体1航海で5~7万円(当時の金)になったのに、この時は1万2千円しかもらえなかった、と無念さを強く記憶しています。船員手帳では、昭和24年17歳で初めてマグロ船海福丸に乗船、昭和25年、福德丸に乗っています。28歳で結婚し、34,5歳までマグロ船にりましたが、その後は三重、三崎のカツオ船(明神水産所属)に乗っています。第7大丸を下船後、体調が悪化、歯の具合が良くない時期があったそうです。

浜町さんが大変元気なのは、三崎船籍で土佐佐賀の明神照男さん(前明神水産会長)所有のカツオ船に乗り、核実験場から離れた海域での操業が長く続いたことと、非常に健康管理に注意を払う生活をつづけたことが考えられます。

いずれにしても、浜町さんが操業した被災船の確認には今後の更なる調査が必要です。

2. 8月9日(月)「平和のための映画会」開催

初めに、「2022 ビキニデーin高知」を代表して山下正寿氏が挨拶しました。

「こんにちは。今日8月9日は、76年目の長崎原爆投下の日です。今から36年前、被爆40周年の年に、長

崎原爆被爆者であった宿毛市の藤井馬さんに出会い、馬さんから『私の息子節弥は長崎で被爆し、ビキニでも被ばくして、病気を苦しんで27歳で入水自殺しました。』という話をうかがい、幡多高校生ゼミナールのビキニ被災船員調査が始まりました。

このビキニ水爆実験の時に、気象研究者であった増田善信さんが1954年5月20日に『水爆実験禁止に関する声明書』を発表、水爆実験で打ち上げられた放射能を含む大量の灰が北半球を中心に地球を包み、冷夏を迎えると警告し、その通りになりました。

その増田さんが『黒い雨』裁判で、『黒い雨』の降った範囲が4倍になると再評価し、判決に大きく貢献されました。政府が認めようとしなのが『放射性降下物、黒い雨』などによる内部被ばくです。これを認めるとビキニ被災や福島原発事故の裁判に影響することを恐れているのです。又、内部被ばくを認めると核実験ができなくなり、核兵器開発そのものが否定されることを当初から重視していました。

ビキニ水爆実験は1954年だけで3月～5月に6回行われ、その核爆発威力は広島原爆の3,220倍、広島原爆が8年9ヶ月半毎日爆発した核爆発威力にあたり、大気や海水の汚染が地球規模で広がりました。

増田さんは、高校生たちと製作したDVD『核被災と核兵器禁止条約』をご覧になり、先日私に手紙を寄せていただきました。その中で、高校生たちの調査活動を高く評価され、次のようなコメントが書かれていました。『まさに、世界中が核汚染の被害を受けているのです。広島高裁の判決は、少なくとも日本船にまで適用しなければならないと思います』

核兵器禁止条約の第6条は「締約国は、核兵器の使用や実験により影響を受けた管轄下の個人について、適用可能な国際人道法および国際人権法に従い年齢や性別に配慮した医療やリハビリテーション、精神的サポートを適切に提供し、社会的かつ経済的に孤立させないようにする。」となっています。核実験被災では、高知の救済活動が国際的に注目されています。

今日観ていただく最初の映画『ひろしま』は広島原爆の実相に迫る多数の被爆者が参加した映画です。2本目は、核兵器禁止条約を求め続けた被爆者、サーロー節子さんのドキュメンタリー映画です。長いですが、ぜひご覧ください。」



映画会のチラシ

2本の映画を視聴後、司会者よりお礼と今後の協力依頼がありました。「長時間の視聴、ありがとうございました。この3月、皆さんのご支援・ご協力のおかげで『ビキニデーin高知』を成功させることができました。来年は2回目を、ということで、『2022 ビキニデーin高知』を企画しています。フィールドワーク、講演、シンポジウムなどです。中でも、シンポジウムは幡多ゼミOBや大学生など若い力を発揮出来るよう考えています。皆さんのご参加やいろんな形でのご支援・ご協力をお願いします。本日は、本当にありがとうございました。」

「平和のための映画会」アンケート結果

(回収35, 複数回答も)

1. 今月1月22日、核兵器禁止条約が発効し、核兵器は国際法で違反兵器となったことをあなたは知っていますか
知っていた**31** 知らなかった**4**
2. 日本政府は核兵器禁止条約を批准していませんか。あなたはご存知ですか
批准し参加すべき**34** 参加すべきではない**0** わからない**1**
3. 67年前、南太平洋ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験で、第5福竜丸以外に、高知のマグロ漁船員など全国で1万人余りが被ばくしたことを知っていましたか
知らない**4** 知っている**32**
6. 「平和のための映画会」を何で知りましたか
新聞、チラシ**17** 友人、知人**18** SNS**0** その他**2**

■ おかまいなければ、あなたの世代(年齢層)を教えてください

10代~20代3 30代~40代2 50代4 60代以上27

4. 映画「ひろしま」のご感想

- ・原爆投下時の生々しさが、その場に自分がいたかのように、とてもよく伝わってきた。(10代~20代)
- ・原爆投下を実体験している方々の出演は、言葉を越えた説得力があり、凄惨な空気感を伝えられる映画でした。(50代)
- ・ラストのシーンで救われた気がした。現実の広島はもっとひどかったのではないかと思った。映像にできないこともあると思うので。核の怖さがもっと広がって日本もアメリカも禁止条約に参加してほしい。(60代以上)
- ・自分の生まれた年に戦争が終わり、小学校低学年の時、学校から4kmの道を歩いて、原爆の映画を見に行ったら事を思い出しました。ひょっとしたら、この映画だったかもしれません。8歳でした。このようなリアルな映画が作製されていたことにびっくりしました。76年前です。ゼッタイ ダメ！(60代以上)
- ・かつて所属していた者として、日教組がこの映画を製作したことに誇りを感じます。(60代以上)
- ・もっとたくさんの人に見てもらいたい。あの時代(1953年)に既に組合ができて、映画を作製する程の力があつたことに驚きです。組合の弱体化、残念です。(60代以上)
- ・小学生か中学生の時に見たはずだけど、全然覚えていません。教職員組合が主になっているので、やはり子供のことをよく描いていると思います。でも、色んな事実の中で、この内容を選択したのは…いけないのではなく、とても良かったので・・・ もっといろんな形で映画を作って、もっと沢山の人が見ることができたらいいと思います。(60代以上)
- ・当時、日教組には力があつたのか？ S. 28年製作の映画「原爆の子」は見たが、この映画は初めてである。S. 20年8月、私はまだ3歳に満たなかったが、戦後、映画のような状況は高知市内の学校で伝えられ、恐らく組合の教員だったろう。原爆の教育も受けた。個人になった俳優の方達(独立プロ)や子役、本当に良く演じていた。悲惨な当時のことは、今更ながら胸をえぐられる思いで見えた。(60代以上)
- ・唯一の被爆国である日本が、核兵器禁止条約の批准をしないという今の政府の姿勢に対して怖さを感じます。日本という国は、又、あの暗黒の時代に向かっているのではないかと… I Tだ何だと喧伝される裏で、正しい情報が操作されて国民に伝えられていない、福島原発事故以来、強く感じる事です。(60代以上)
- ・被曝について、写真や書籍でイメージはもっていましたが、

日教組がこの作品を作製したことは驚きです。友人は母が被爆していますので、被爆2世で、友人本人が今も体調不安を抱えています。「戦争は簡単には終わらない」が実感です。(60代以上)

- ・実写フィルムと相まって、大げさでなく、こんな情景があふれていたんだろうと思うと寒気を感じました。(冷房も効きすぎてましたが) 学生が「世界中の人に知ってもらうことも大切だが、日本人、この教室にいる人達に知って欲しい。」と言ったあの言葉、すごく身に沁みました。身近な人たちが知ってもらうことが大切ですね。(60代以上)
- ・私の知人(84歳)に、広島市の被爆地から4里離れた所で被弾した方の看護をした、大変悲惨だったと話してくれました。本日の映画と重なり、再度聞いて話を残しておきたいと思った事です。58年にこの映画が作られたことを知りました。戦争に向かう、動き、止めよう。(60代以上)
- ・非人道的な手段は、たとえ戦勝国であっても、不問、免罪にしてよいものではありません。(30代~40代)
- ・これをリメイクして、今の子どもも見れる様にしてほしいと思いました。3人、子どもを連れて、わかる範囲でよいかから見せたいと来ましたが、怖い印象が強すぎたようです。でも、子どもにこそ知ってほしい。(30代~40代)
- ・原爆、核兵器の悲惨さを、改めて確認する内容だった。ただ、1点だけ、音声聞き取れなかった。映画製作時の機器もあると思う。高齢、難聴者にもわかるように「字幕入り」に改修してほしい。(60代以上)

5. 映画「ヒロシマへの誓い サーロー節子とともに」のご感想

- ・感激でした。皆にすすめたいです。希望と力をもらって、自分も頑張ります。(50代)
- ・すがすがしい映画だった。核禁条約は世界を変えることができると思った。節子さん、I CANさん、ありがとう。(60代以上)
- ・大変感動した。*CDを作ってほしい。(60代以上)
- ・うれし涙です。「あきらめるな！」光をめざして進め！！(60代以上)
- ・涙、涙の連続でした。サーロー節子さんの信念もすごかったのですが、世界の人々がこたえてくれたことに未来を感じました。父は広島で被爆したのですが、口下手で、私自身それ程、反核平和運動に走るということはありませんでしたが、毎年平和行進に父が参加していたことを思い出し、あれが父の原爆反対の意思だったのかなと思いました。(60代以上)
- ・長い、長い、闘いの中で、核廃絶の条約発効。日本にハンコ

を押させるまで、弱ってはいられない。署名、頑張っていく
ます。「ビキニデーin高知」参加します。(60代以上)



「取った魚を廃棄させられた。ほんま泣いた」「みんな被曝者を嫌うけん。娘にはだまっちゃった」スクリーンに高齢の漁師たちが次々と映し出される。高知県に住む彼らが語る。

グローバルヒバクシャ 被爆76年

4

私も「死の灰」浴びたのに

ビキニ被曝元船員の声映像化

この記事を見て、重要な補足コメントがいくつか寄せられました。コメントは、日本政府が健康調査と放射線被曝との因果関係の立証を漁船員側に求めるのではなく、因果関係を否定できなければ積極的に補償すべきというのが「黒い雨」高裁判決の趣旨で、ビキニ事件の内部被ばくにも活かされるべきというものです。

るのは、1954年に太平洋のビキニ環礁周辺でマグロ漁船を操業中、米国の水爆実験で被曝した体験だ。この記録映像を制作したのは同県四万十町の映画監督、市木元空さん(29)。6月中旬から7月初めまで、同県須崎市のギャラリーで展示された。



インタビューに答える谷脇寿和さん(2021年7月2日午後、高知県土佐清水市、小川智撮影)

され、米政府が200万ドルの見舞金を支払う「政治決着」がなされた。それ以外は「漁船員の高齢化が進み、救済対象にならなかった。市木元空さんも2017年



市木元空さん(2021年7月1日午後、高知県須崎市、小川智撮影)

に埼玉から移住して初めての見舞金を支払う「政治決着」がなされた。それ以外は「漁船員の高齢化が進み、救済対象にならなかった。市木元空さんも2017年

を合せて22人を取扱した。その一人が土佐清水市の谷脇寿和さん(86)だ。1954年3月1日、「第13光栄丸」の上で「死の灰」を浴びた。当時19歳。「甲板で作業中、海に向こうがひかっと光った。稲妻と思った」と振り返る。

谷脇さん(2021年)「被曝の事実を隠した」として国に損害賠償を求め高知地裁に提訴した。18年の判決で漁船員の被曝は認定されたが、「国に追跡調査や支援の義務はなかった」として請求は棄却された。二審の高松高裁も一審を支持。政府は今も救済に後ろ向きだ。「言葉にできないような腹立ちを感じます」

米国の第13光栄丸が被曝した1954年3月1日の水爆実験に限り、マーシャル諸島の住民236人が被曝したと同年に公表した。一方、ビキニ、エニウエトク両環礁の住民は46〜47年に米国によって移住させられ、54年には別の二つの環礁も避難対象となった。

・世界の核実験被害者補償制度の中では、放射線被曝と発病との厳密な立証を被害者側に求めない形で多くは進んでいる。個々の線量評価を行うのではなく、核実験にあったことと対象疾患に罹患したこと、その両者を証明できれば、それをもって被害を推定する方式が確立されている。

・そもそも核被害は、健康だけにとどまらずに、被害を幅広くとらえていくことが重要である。疾病でもって被害のありなしの線引きを測るのではなく、被害者補償は、暮らし、心、文化の影響など、健康被害以外もカバーするものを構想していく必要がある。

明星大学教授・竹峰誠一郎

静岡大学名誉教授・山本義彦